

仔犬のいる部屋

江藤淳

仔犬のいる部屋

江藤 淳

講談社

著者略歴

1933年東京生れ。慶應義塾大学英文科卒業。文芸評論家。
東京工業大学教授。

著書 『夏目漱石』『奴隷の思想を排す』『作家は行動する』『海賊の唄』『作家論』『日附のある文章』『小林秀雄』（新潮社文学賞）『西洋の影』『文芸時評』『アメリカと私』『犬と私』『続文芸時評』『成熟と喪失』『崩壊からの創造』『考えるよろこび』『漱石とその時代Ⅰ・Ⅱ』（菊池寛賞・野間文芸賞）『旅の話・犬の夢』『アメリカ再訪』『一族再会』『批評家の気儘な散歩』『夜の紅茶』『文学と私・戦後と私』『海舟余波』『フロラ・フロラヌと少年の物語』『決定版夏目漱石』『こもんせんす』（正・続・続々・再び・再々）『漱石とアーサー王傳説』『海は魅えるⅠ・Ⅱ』『明治の群像Ⅰ・Ⅱ』『朝日小事典夏目漱石』『もう一つの戦後史』『なつかしい本の話』『蒼天の飴』（対談集）『歴史のうしろ姿』『日付のある対話』（対談集）他に『江藤淳著作集』（全6巻）『続江藤淳著作集』（全5巻）『江藤淳全対話』（全4巻）がある。

仔犬のいる部屋

一九七九年六月二十九日 第二刷発行

定価 一、二〇〇円

著者 江藤 淳

編集 株式会社 北洋社

発行者 野間省一

発行所 株式会社 講談社



東京都文京区音羽二一二二
郵便番号 一一二
電話 東京（〇三）九四五一一二（大代表）
振替口座 東京八三三九三〇

印刷所 豊国印刷株式会社

製本所 株式会社 大製

乱丁・落丁本はおとりかえいたします。
© Jan Eto 1979

目次

I

わが内なる佐賀

*

オッパイ・デザイン

ツルリとしたもの

仔犬のいる部屋

*

『明治の群像』と私

テレビドラマと私

『海は甦える』と私

15

18

22

28

34

41

45

明石のタイ 神戸のステーキ

48

II

私の原点——旧い檻型のエレヴェーター

61

ダルマの眼

64

サインパーティ

67

欧州講演旅行

71

有朋自遠方来

75

年の瀬のアルバム

79

「公私相関」と「生死循環」

84

父の音楽

88

家長の責任

89

Ⅲ

二代目ざらい

99

佐藤朔塾長のこと

103

田久保英夫氏を囲む会

108

地域研究のすすめ

112

友、遠方に在り

116

「三田文学」創刊六十周年

120

奥野信太郎先生のこと

124

面白い人

128

ある夕食会のこと

132

*

一九七〇年の文学

135

小説と人称の構造

140

活字と映像の間

145

『漱石とアーサー王傳説』について

149

“紅茶的”

155

私の講義

158

*

米国のファカルティ・クラブ

165

ロンドンの“新歌舞伎”

168

アヴァロンのアーサー

171

「ステューディオ」のこと

176

流政之のこと

182

IV

読書の愉しみ

185

*

夏目漱石著『坊つちやん』

186

三浦哲郎著『海の道』

190

青柳瑞穂著『壺のある風景』

192

上林暁著『ジョン・クレアの詩集』

194

河上徹太郎著『有愁日記』

196

戸板康二著『劇場歳時記』

198

加太こうじ・佃実夫編『流行歌の秘密』

200

舟橋聖一著『花實の繪』

202

福田豊四郎著『わがうたはふるさとのうた』

204

永井龍男著『コチャバンバ行き』

207

山本健吉著『漱石 啄木 露伴』

210

遠山一行著『音楽有愁』

213

蓮實重彦著『夏目漱石論』

217

*

片附ける

222

V

厚化粧した本

馬車と自動車

子供にたよる

孝子・順孫・節婦・義僕

選挙について

犬とたもと

「自由席」と「行列」

とり残されるという不安

「ふるさと」よ もう一度

仏壇屋繁昌記

252 248 244 241 237 235 233 231 229 227

二等兵まん十

256

三代の家族

261

利と義と

265

VI

グリニッジの薔薇

271

中国は開かれたか——北京の一週間

275

*

澄んだ冬空

299

あとがき

303

装帧・插画
江藤慶子

仔犬のいる部屋

この書を父上の御靈に捧げまゐらす

